

戦争が終わって私が台湾から還って暫く長野県で農業を手伝っていましたが、先輩にさそわれて出て来たころ、家内の兄も中国から還って参りました。そのころ市会議員をしているお寺の住職から、韓国の金谷君という私より五才位若い青年を預かっている。両親は国に還ったがミシンの修理をしながら大学に通っていると紹介され、兄と三人で兄の家に集まって夜遅くまで話をするようになりました。

ミシンを売ってもそれは子供を預けるようなもので、大事に扱ってくれないと困ります、と言いながら近くを通ると寄っては調整してくれました。そして駅の近くにミシン店を経営するようになり、市会議員の媒酌で韓国の娘さんと結婚し、店も成績良く発展して行きましたが若くして病気に倒れてしまいました。韓国の心を教えてくれた良き友、また尊敬する友人を失った事は残念です。韓国の心を教えてくれた良き友人、彼こそ私たちに正しさを教えてくれたのに残念です。

一九九六年十一月十二日(火) シャルトルーズに於いて第一回目の日韓談話室が開催された時に私も嘉陽さんに誘われて参加させて頂きました。お見えになる方は崔書勉先生始め越智道雄先生や名前は聞いていたが、近寄りがたい方ばかりでした。どうしようと思いましたが思い切って早めに出掛け、あまり目立たない柱の蔭に座りました。崔先生が少し太りぎみの体で少し早めにお出でになって優しさのある様子でお見えになった時は来て良かったと思えました。以後休む事も無く成るべく出席させて頂きました。安重根義士の話は始めて聞きましたが、崔先生が安重根義士の業績を語る時は特別でした。ふと学徒出陣で兵隊に行き特攻機に乗ってアメリカの航空母艦に体当たりした友人の事を思い出しました。甥に連れられて韓国に旅行した時、資料館は時間が遅く入場出来ませんでした。表に有る銅像

をしばらく眺めて還りました。天を仰いで立つ姿は多くの人に平和の有り難さを語っているように思いました。

六回目位までシヤルトルーズで開催されましたがその後はしばらく国際ビル八階の日本クラブで開催されました。その後又シヤルトルーズになり、最近では崔先生がお世話になっている東京さぬき倶楽部で開催されるようになりました。

二〇二二年五月二十六日東京さぬき倶楽部で崔書勉先生の日本上陸五十五周年記念祝賀会が開催されました。パスポート無しに日本にきて大変な思いで過ごされたと思います。それにしても五十五年にもなる韓国と日本の為に随分苦勞なさったと思います。崔先生、これからもお隣の国韓国と日本、そして世界の平和の為に元気で活躍下さる事をお祈りいたします。崔先生の大きなお腹の中に一杯詰まった日韓親善と安重根義士の心、世界を飛び回って平和の有り難さを教えて下さった崔先生いつまでもお元気で。